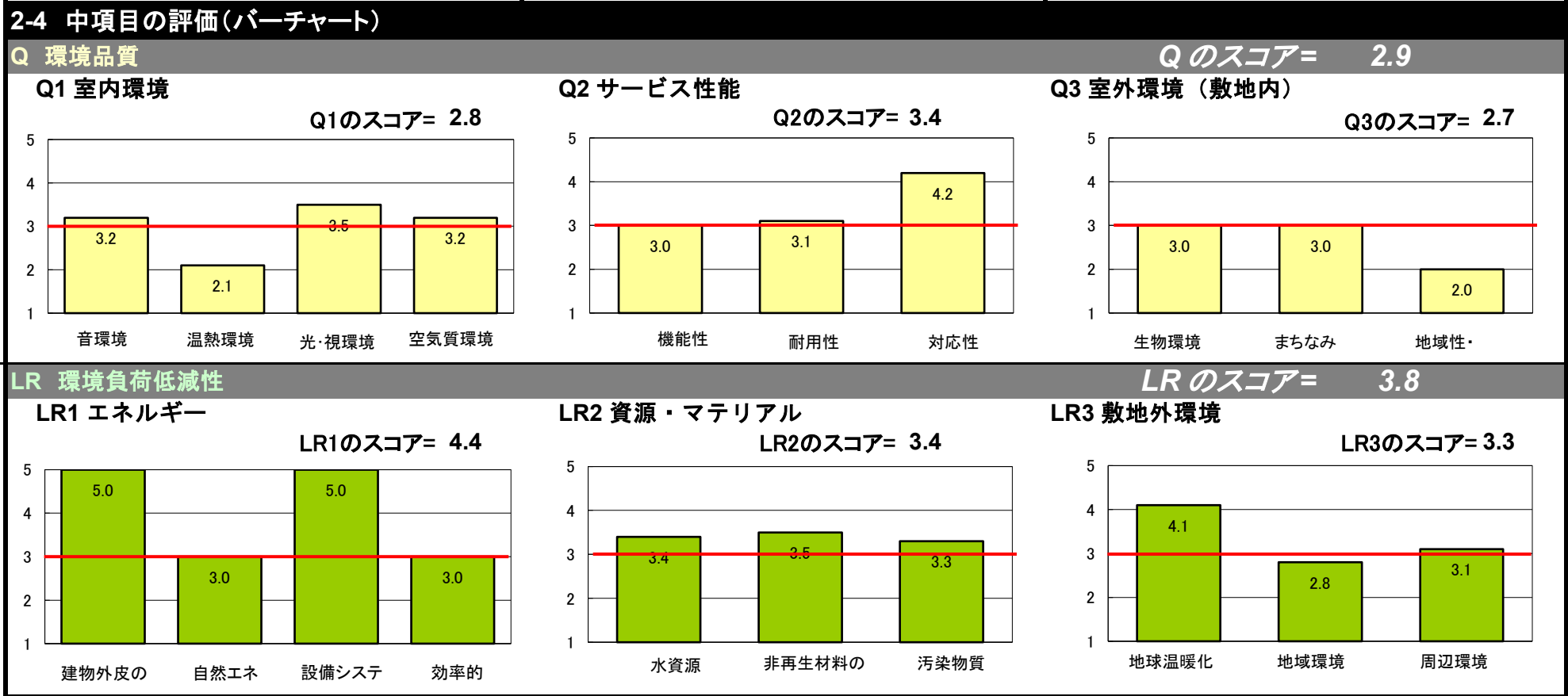
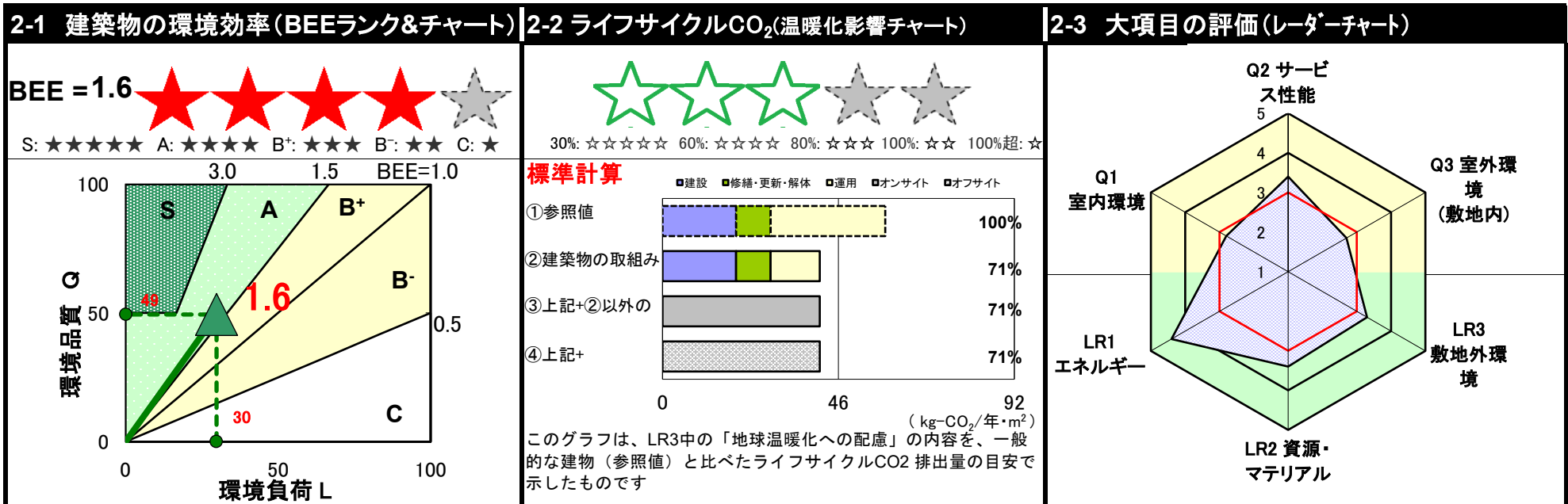


CASBEE神戸ver.3

■使用評価マニュアル: CASBEE神戸ver.3/CASBEE-建築(新築)2016年版 ■使用評価ソフト: CASBEE神戸ver.3/CASBEE-BD_NC_2016(v3.0)

評価結果

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	(仮称)LOGIQ神戸新長田新築工事	階数	地上4F、地下0F
建設地	神戸市長田区駒ヶ林南町6-1他	構造	S造
用途地域	工業専用地域、準防火地域	平均居住人員	440 人
地域区分	6地域	年間使用時間	8,760 時間/年(想定値)
建物用途	事務所、工場	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2026年8月 予定	評価の実施日	2024年10月1日
敷地面積	23,363 m ²	作成者	大豊建設(株)一級建築士事務所塚原卓郎
建築面積	15,795 m ²	確認日	
延床面積	56,584 m ²	確認者	



3 CASBEE神戸の重要項目		
<p>バリアフリー計画</p> <p>Q-2/1.1.3 バリアフリー計画</p>	<p>建築物の耐震性等</p> <p>Q-2/2.1 耐震・免震・制震・制振</p> <p>Q-2/2.4 信頼性</p>	<p>まちなみ・景観への配慮</p> <p>Q-3/2. まちなみ・景観への配慮</p>
<p>配慮の概要</p> <p>-</p>	<p>配慮の概要</p> <p>-</p>	<p>配慮の概要</p> <p>-</p>
<p>その他の配慮事項</p> <p>-</p>		

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)
 ■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 ■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される
 ■LCCO₂の算定条件等については、「LCCO₂算定条件シート」を参照されたい

CASBEE神戸ver.3/CASBEE-建築(新)
(仮称)LOGI'Q神戸新長田新築工事

■使用評価マニュアル CASBEE神戸ver.3/CASBEE-建築
■評価ソフト: CASBEE神戸ver.3/CASBEE-BD_

欄に数値またはコメントを記入

スコアシート		実施設計段階								
配慮項目		環境配慮設計の概要記入欄				評価点	重み係数	評価点	重み係数	全体
Q 建築物の環境品質										2.9
Q1 室内環境							0.31		-	2.8
1 音環境						3.2	0.15		-	3.2
1.1 室内騒音レベル						3.0	0.40		-	
1.2 遮音						3.0	0.40		-	
1 開口部遮音性能						3.0	0.60		-	
2 界壁遮音性能						3.0	0.40		-	
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)							-		-	
4 界床遮音性能(重量衝撃源)							-		-	
1.3 吸音		床、天井の二面に吸音材を使用				4.0	0.20		-	
2 温熱環境						2.1	0.35		-	2.1
2.1 室温制御						3.2	0.50		-	
1 室温						3.0	0.38		-	
2 外皮性能		断熱性能の高い材料を採用				4.0	0.25		-	
3 ゾーン別制御性						3.0	0.38		-	
2.2 湿度制御						1.0	0.20		-	
2.3 空調方式						1.0	0.30		-	
3 光・視環境						3.5	0.25		-	3.5
3.1 昼光利用						3.0	0.30		-	
1 昼光率						3.0	0.60		-	
2 方位別開口							-		-	
3 昼光利用設備						3.0	0.40		-	
3.2 グレア対策						3.0	0.30		-	
1 昼光制御						3.0	1.00		-	
3.3 照度						3.0	0.15		-	
3.4 照明制御		1作業単位以下で制御、リモコン等で調整可能				5.0	0.25		-	
4 空気質環境						3.2	0.25		-	3.2
4.1 発生源対策						3.0	0.50		-	
1 化学汚染物質						3.0	1.00		-	
4.2 換気						3.6	0.30		-	
1 換気量		換気量は30m3/h・人				4.0	0.33		-	
2 自然換気性能						3.0	0.33		-	
3 取り入れ外気への配慮		給気口は排気口と同方位だが6m以上の離隔				4.0	0.33		-	
4.3 運用管理						3.0	0.20		-	
1 CO ₂ の監視						3.0	0.50		-	
2 喫煙の制御						3.0	0.50		-	
Q2 サービス性能						-	0.30		-	3.4
1 機能性						3.0	0.40		-	3.0
1.1 機能性・使いやすさ						2.0	0.40		-	
1 広さ・収納性						1.0	0.33	1.0	-	
2 高度情報通信設備対応						2.0	0.33		-	
3 バリアフリー計画						3.0	0.33		-	
1.2 心理性・快適性						4.3	0.30		-	
1 広さ感・景観		天井高2.7m以上				4.0	0.33		-	
2 リフレッシュスペース		執務スペースの1%以上のリフレッシュスペース+自動販売機等の設置				5.0	0.33		-	
3 内装計画		パースによる内装計画の事前検証を実施等				4.0	0.33		-	
1.3 維持管理						3.0	0.30		-	
1 維持管理に配慮した設計						3.0	0.50		-	
2 維持管理用機能の確保						3.0	0.50		-	
2 耐用性・信頼性						3.1	0.30		-	3.1
2.1 耐震・免震・制震・制振						3.0	0.50		-	
1 耐震性(建物のこわれにくさ)						3.0	0.80		-	
2 免震・制震・制振性能						3.0	0.20		-	
2.2 部品・部材の耐用年数						3.4	0.30		-	
1 躯体材料の耐用年数						3.0	0.20		-	
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔						2.0	0.20		-	
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔		耐用年数の長い内装仕上げ材を使用				5.0	0.10		-	
4 空調換気ダクトの更新必要間隔						3.0	0.10		-	
5 空調・給排水配管の更新必要間隔		給水(SGP):B、排水(VP):B、冷媒(冷媒用銅管):C				5.0	0.20		-	
6 主要設備機器の更新必要間隔						3.0	0.20		-	
2.4 信頼性						3.0	0.20		-	
1 空調・換気設備						3.0	0.20		-	
2 給排水・衛生設備						2.0	0.20		-	
3 電気設備						3.0	0.20		-	
4 機械・配管支持方法		耐震クラスA以上				4.0	0.20		-	
5 通信・情報設備						3.0	0.20		-	

3 対応性・更新性			4.2	0.30	-	-	4.2
3.1 空間のゆとり			5.0	0.30	-	-	
1	階高のゆとり	階高3.9m以上	5.0	0.60	-	-	
2	空間の形状・自由さ	壁長さ比率:0.1未満	5.0	0.40	-	-	
3.2 荷重のゆとり			5.0	0.30	-	-	
			〈工場用途〉床積載荷重:4500N/m ² 以上				
3.3 設備の更新性			3.2	0.40	-	-	
1	空調配管の更新性		3.0	0.20	-	-	
2	給排水管の更新性		3.0	0.20	-	-	
3	電気配線の更新性		3.0	0.10	-	-	
4	通信配線の更新性	構造部材・仕上げ材を痛めること無く修繕更新が可能	5.0	0.10	-	-	
5	設備機器の更新性		3.0	0.20	-	-	
6	バックアップスペースの確保		3.0	0.20	-	-	
Q3 室外環境(敷地内)			-	0.39	-	-	2.7
1 生物環境の保全と創出			3.0	0.30	-	-	3.0
2 まちなみ・景観への配慮			3.0	0.40	-	-	3.0
3 地域性・アメニティへの配慮			2.0	0.30	-	-	2.0
3.1 地域性への配慮、快適性の向上			2.0	0.50	-	-	
3.2 敷地内温熱環境の向上			2.0	0.50	-	-	
LR 建築物の環境負荷低減性			-	-	-	-	3.8
LR1 エネルギー			-	0.40	-	-	4.4
1 建物外皮の熱負荷抑制			5.0	0.20	-	-	5.0
			断熱性能の高い躯体構成及び建築材を使用				
2 自然エネルギー利用			3.0	0.10	-	-	3.0
3 設備システムの高効率化			5.0	0.50	-	-	5.0
			[BEI][BEIm] = 0.43				
4 効率的運用			3.0	0.20	-	-	3.0
集合住宅以外の評価			3.0	1.00	-	-	
4.1	モニタリング		3.0	0.50	-	-	
4.2	運用管理体制		3.0	0.50	-	-	
集合住宅の評価			-	-	-	-	
4.1	モニタリング		-	-	-	-	
4.2	運用管理体制		-	-	-	-	
LR2 資源・マテリアル			-	0.30	-	-	3.4
1 水資源保護			3.4	0.20	-	-	3.4
1.1 節水			4.0	0.40	-	-	
			給水器具の過半に節水機能のあるものを採用				
1.2 雨水利用・雑排水等の利用			3.0	0.60	-	-	
1	雨水利用システム導入の有無		3.0	0.70	-	-	
2	雑排水等利用システム導入の有無		3.0	0.30	-	-	
2 非再生性資源の使用量削減			3.5	0.60	-	-	3.5
2.1 材料使用量の削減			5.0	0.10	-	-	
			F.T.Pile構法、ニューフェローデッキ等を採用				
2.2 既存建築躯体等の継続使用			3.0	0.20	-	-	
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用			3.0	0.20	-	-	
			-				
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用			3.0	0.20	-	-	
			断熱材: 押出発泡ポリスチレンフォーム				
2.5 持続可能な森林から産出された木材			2.0	0.10	-	-	
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み			5.0	0.20	-	-	
			躯体と仕上材が容易に分別可能な構造、OAフロアの採用				
3 汚染物質含有材料の使用回避			3.3	0.20	-	-	3.3
3.1 有害物質を含まない材料の使用			3.0	0.30	-	-	
3.2 フロン・ハロンの回避			3.5	0.70	-	-	
1	消火剤		-	-	-	-	
2	発泡剤(断熱材等)	ODP<0.01、1<GWP<50の断熱材を使用	4.0	0.50	-	-	
3	冷媒		3.0	0.50	-	-	
LR3 敷地外環境			-	0.30	-	-	3.3
1 地球温暖化への配慮			4.1	0.33	-	-	4.1
			LCCO2排出量削減に配慮				
2 地域環境への配慮			2.8	0.33	-	-	2.8
2.1 大気汚染防止			5.0	0.25	-	-	
			燃焼機器の採用なし				
2.2 温熱環境悪化の改善			2.0	0.50	-	-	
2.3 地域インフラへの負荷抑制			2.5	0.25	-	-	
1	雨水排水負荷低減		3.0	0.25	-	-	
2	汚水処理負荷抑制		3.0	0.25	-	-	
3	交通負荷抑制		3.0	0.25	-	-	
4	廃棄物処理負荷抑制		1.0	0.25	-	-	
3 周辺環境への配慮			3.1	0.33	-	-	3.1
3.1 騒音・振動・悪臭の防止			3.0	0.40	-	-	
1	騒音		3.0	1.00	-	-	
2	振動		-	-	-	-	
3	悪臭		-	-	-	-	
3.2 風害、砂塵、日照障害の抑制			3.0	0.40	-	-	
1	風害の抑制		3.0	0.70	-	-	
2	砂塵の抑制		-	-	-	-	
3	日照障害の抑制		3.0	0.30	-	-	
3.3 光害の抑制			3.7	0.20	-	-	
1	屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策	光害対策チェックリストの過半を満足	4.0	0.70	-	-	
2	屋光の建物外壁による反射光(グレア)への対策		3.0	0.30	-	-	